

おん み あ のり と
御身生れ祝詞

か まく かしこ にちりんたいよう じゅうじげん おおみこころ
掛け巻も畏き 「日輪太陽」「十示元」の「大御意志」
よ せいめいみあ げんし たん にゅうこん おきつ
に誉り、生命身生れの原子「丹」丹生魂が「息津」より
ほうしや けんげん うちゅう う がみやま たぎつ
放射 「顕現」され、宇宙産「迂迦御魂」「湍津」にて、
にゅうろつこんいでんし あおあか むかこ う み か
「丹生六根遺伝子」青赤「零迦児」にお産魅変えに成り、
れいめい にゅうろつこん むかこ み あ せいち へつ
「靈命」「丹生六根」零迦児の「身生れ」の聖地、「邊津」
ちきゅう たかまがはら たにわ じゅうりん じゅうたん
地球の「貴天原」「丹庭」に、「御降臨」「御降誕」に
な ま
生り坐せし。

すめらかむつ かむろぎのみこと かむろみのみこと おおみこころ
皇親 「神漏岐命」、「神漏美命」の大御意志に

よ たべものれんさ だいいれいめいたい いせい いなりろつこん
誉り、食物連鎖の「大靈命帯」、「伊勢」「生成六根」の
だいいれいかいせいめい ごぞうえい う だ な つづ
「大生命界生命」を御創造お生み出しに成り、続いて
かみ こ にんげん あかむかろつこん すべ ものごと どう
「神の児」人間「赤零迦児六根」に、総ての物事 「動
しよくぶつ すべ つう あ こと でき かな しるめぐみ
植物」に、総てを通じ合わす事が出来適う、「知瑠恵」
さず たま
を授け賜い。

たんば くに たかまがはら まないはら たにわ じゅうりん
丹波の国「貴天原」真名井原「丹庭」に、「御降臨」

じゅうたん み あ な ま しょだい いざないのみこと
「御降誕」身生れに生り坐せし、初代 「伊邪那岐尊」
いざなぎのみこと れきだいながき つづ せしゅうせうじ
「伊邪那身命」にて、歴代長期に続き、世襲最後の

いざなぎのみこと いざなみのみこと ちやくし のみこと
「伊邪那岐尊」「伊邪那身命」の嫡子、アマテルカミ尊

たん たんこん すめらかむつ かむろみのみこと とともに
の「丹」胎魂に、皇親 「神漏美命」と共に、

初代 「伊邪那身命」

でま

な

あら

がお出増しに成られ、改めて

「宇宙産零六根」

身生れの

「宗像」。

三津「三界一体」

の「基督神力氣」を「神明伝承」

「産靈」の神力氣を

以てお観せに成れば、

真ぐ成る「意志」

満ち足る

豊受の

「神魂」を勿て、「神明伝承」の神力氣を、お受け止め

に生られたアマテルカミ尊は、直ちに人類 発祥身生れ

の聖地。

丹波の国「貴天原」、真名井原「丹庭」身生れの

「神靈地」に、与謝宮を御造営に成り、此の世に

唯一度だけ神が神の「宗像」を明らかにされた、「神明

伝承」 三津三界一体の 基督神力氣を。

唯一神明 「三位一体」「伊勢」「生成六根」の神力氣

を、「天照皇大御神」とお呼びに成られお祀りされ、

謹み敬い 崇められ賜い。

伊邪那岐家を「神明伝承」「伊勢」「生成六根」の

神力氣をお祀りする、齋王家と改ために成り、

豊受大臣として祭祀され、海辺族を神明伝承

「三位一体」「伊勢」「生成六根」の神力氣に御奉仕

する、「臣人」「臣族」とお導きに成り賜い。


「宇宙産」「三位一体」「三界の」「伊勢」「生成六根」

の神力気の根に、「伊勢」女男ととして、「生成六根」の
「神業」神業を賜り「身生れ」をし身命こそ、「神体」
神成りと悟り知り賜い。

「宇宙産」神力気の「大御意志」の根に、此の
世界を、「一津の国」世界と生す「国弾」の為に、
丹波

国「貴天原」、真名井原「丹庭」に神留坐す。
唯一神明「三位一体」「伊勢」「生成六根」、「産靈」
の「神魂」「靈魂」を、「邊津」地球の東西左右基の基分

の「神筋」、神筋山の頂に、お移りを願い「御降臨」を
賜りて、其の神筋山の麓の「神靈地」。五十鈴川の
辺に與謝宮を御造営に成り賜い。

「宇宙産」三位一体「伊勢」「生成六根」の、「生羅
御靈魂」にお静まり賜りて、「邊津」地球に生じる総て
の生氣物の「守護神」「迦護目の神とお祀りされ賜い。

東西左右基の基分の「神筋」、東の「由基」の神地と、
西の「主基」の神地を「一津」「一界」に「産靈」「日出
ずる日之本の「融通統一国家」世界を建設誕生

させる為に、鈴鹿の山本椿之荘に、お住まいに成られて
いた猿田彦尊を仲立とされ、北伊勢国は多度の小山の
頂に、アマテルカミ尊と早素佐之尊とが、御会見

な たま

に成り賜い。

あまつひこね

てんかい いちもくれん つら

うちゅう

「天津彦根」天界に一目連に連なる、「宇宙産」

みつさんげん

きとくしんりき

むすび

もとり

もと

三津「三界」の「基督神力気」「産霊」の「元理」の根

げんげん

れいめいかい

ぜんあく

に、「幻現」された「霊命界」には、善も悪もなく

しるめぐみ

もとり

もと

おお わ かさ あ

「知瑠恵」の「元理」の根に、大きく輪し重なり合って、

だいいれいめいたいむかい

けいせい

たま

「大霊命帯零界」を経世し賜い。

たべもの れんさ

だいいせいめいたい

せいめいかいせいめい

食物連鎖の「大生命帯」「生命界生命」を

そんりつ

だいいれいめいくりにゅうつかい

なら

存立させて居る、「大霊命括理丹生津界」に習い、飽く

ま あらそ

さ

ゆき

すき

くにびき ちか あ

迄でも争いを避け、「由基」「主基」の国弾を誓い合う。

ごなんさんじよ

うけひ

ふたかた もと

「御難賛助」の「御誓約」をされたお二方の本に、

かくちいき

しゆく「ごうぞく

おさ

いなり

くにたちのみこと

各地域の種族豪族の長、「捨七人」国常立尊が

つどい

はやすさのうのみこと

おずてんのう

とわ

集い来られ、早素佐之尊「尾頭天王」を、捨八の

くにたちのみこと

おさがみ

せんしゆつ

国常立尊の「長上」に選出され、

とわ くにとこたちのみこと

せつさたくまきよつぎ

たま

捨八の国常立尊達が、切磋琢磨協議され賜い。

あまてるかみのみこと とようけおおかみ

しよだいよさのみ

天照神尊「豊受大臣」を初代「與謝身」

あまてるてんのう

ずいしよつ

てんのう しょうちよつ

とわ

天照天皇に瑞祥され、天皇を象徴とする、捨八の

くにたちのみこと

みこころ

みきく

さんぎ とようけいかい

国常立尊の「御意志」を「観聴区」参議「豊受界」

たんじよつ く き ごもん さだ たま

が誕生し、聴区の御紋を定め賜い。

ゆいつしんめい

さんみいつたい

いせ

いなりろつこん

みあ

唯一神明「三位一体」「伊勢」「生成六根」身生れの

しんりき

まつ

しんめいづ

みあ

しんでん ぞうえい

神力気をお祀りする「神明造り」身生れの神殿が造営さ

あまつかみ くにつかみ しるめぐみ むすび いただ
れ、「天津神」「国津神」が「知瑠恵」の「産霊」を頂く
ちぎ むね たか たかしり むね ふか むすび お
千木を、棟に高く「貴知理」胸に深く「産霊」憶き、
つみけがねな しんれいむろかい ろっこん むつ ろく
罪穢 無き「神霊零産界」の「六根」を、六津の「陸」
かつおぎ わ いただ たま
葛緒木に分け頂き賜いて。

とうざいうき みあ きばしら あいぜんいなりろっこん
東西左右基に「身生れ」の生柱を、「愛染生成六根」
みわぎ いただ もち ごしようだいじ きうつ

の「身業」を頂き勿て、後生 大事 の「生遷り」を、
うぶすなふか しとしく ふとし たて てん ち しか
産土深く「使徒支久」太「敷き立」、天と地を「確活」
よよししばしら つな と さかき めで むすび
と「世代嗣子柱」に繋ぎ止め「栄気」も芽出て「産霊」
おく さんげんいつたい かごめ まなか み あ がみ
屋。「三界 一体」★「迦護目」真中の已生れ伸。

ゆいつしんめい さんいつたい いせ いなりろっこん
唯一神明 「三位一体」「伊勢」「生成六根」の
しんぎよう みわぎ むすび あまくだ お たま

「神業」「身業」の「産霊」を、天降し置き賜いし、
しんれいむろかい ろっこん もとり もとず せいめい
「神霊零産界六根」の「元理」に基付き、生命を

戴 き勿、身生れを子て来た「生命身悟」こそ、
しんめいしんたい あ ことさと しり
「身命神体」で有る事を悟り知理。

「天津神」「国津神」の「知瑠恵」の「産霊」の根に、
あまつかみ くにつかみ しるめぐみ むすび もと
おお わ あ なご ゆ にぎみたま やまとだまし

大きく輪し合い和み行く、「和気身魂」大和魂と、
いせいろっこん みわぎ いせいろっこん みわぎ
「伊勢六根」の「神業」と「生成六根」の「身業」を

戴 き勿、産まれ来た亞我身を持ち手、謹み 願ひ敬い
あが たてまつ かしこ かしこ まお
崇め奉り、恐み 恐みも白す。